

伊那山仲間

伊那山仲間は1975年9月20日、当時の伊南勤労者山の会（現・駒ヶ根山岳会）を母体に分離独立し、「安く 楽しく 安全に・ハイキングからヒマラヤまで」「何時でも 誰でも 何処へでも」をスローガンに、会員数33名をもって創立されました。当時の会員は20代前半が多く、活気が溢れ山行や例会、機関誌発行（毎月）などが活発に行われました。。

1977年には、全国連盟のヒマラヤ隊へ会員1名を大規模な実行委員会を設けて送り、後に県連のネパール遠征へ2回3名を送りました。1994年には、会独自でエベレスト脇のロブジェ登頂を果たしました。

自然保護の活動では例年6月に「クリーンハイク」を実施しています。中ア・木曾駒ヶ岳と空木岳の取り組みでは、地元の自治体にゴミ降ろしのヘリコプターの調達を依頼したこともあります。1997年、中アのロープウェイのゴンドラ大型化については、伊那、駒ヶ根を拠点にした「中央アルプスの自然を愛する会」に設立から参加し、ゴンドラの大型化を止め、周辺の環境保護に多くの意見を発出してきました。また、2006年には、伊那市長谷の鹿嶺高原から入笠山への風力発電施設建設設計画に対し、景観保護や該当の里山破壊を懸念して「入笠山周辺の風力発電をやめさせる会」を伊那山仲間中心に設立しました。自然愛好家の団体や個人とともに反対活動の輪を広げ、現在伊那市や同議会の理解を得て、現在計画は頓挫しています。

伊那山仲間は自前の事務所を持っており、資金集め、土地の造成、建物の造作まで、ほぼ会員のみで実施しました。例会や、会のイベントのみならず、県連の講習会にも積極的に活用しています。

現在、会員は30～50代が中心で、女性会員も多く、ハイキング、沢登、縦走、バリエーションからバックカントリースキー等、四季を通じて幅広く活動しています。特に夏は沢登を中心に、焚火や釣りも楽しんでいます。



米子沢 沢登



千畳敷 雪上訓練